

農 村 振 興 局 長 賞

1. 地区概要

参加地区名：長野県 田園空間整備事業上田青木地区

表彰団体名：コア施設運営委員会

事業名等：田園空間整備事業

工 期：平成11年度～平成22年度

主要工事：農業集落道整備 2路線 L=2,408m, 集落水辺環境整備 ため池7ヶ所 A=20,909㎡
コミュニティ施設整備 コア施設1ヶ所, 景観保全整備 3ヶ所（案内板、蚕種保冷施設整備等）、遊歩道施設整備 6路線 L=4,975m, 集落緑化施設整備 1ヶ所（駐車場等）

2. 当該団体の概要

(1) 組織名 コア施設運営委員会

(2) 設立年度 平成21年度

(3) 設立経緯 コア施設（総合案内所）の建設地である上田市手塚地区は、独鈷山（とっこさん）を背負う塩田平の南西に位置し、西塩田地区にある住民団体（西塩田地区振興会・西塩田自治会連合会・西塩田地区営農活性化推進組合）は、従来からこれら歴史ある地域資源（ため池、伝統文化等）をより一層PRすると共に、埋もれた文化の歴史を掘り起こし、後世に継承していく必要があると考えていた。しかし、当地域には活動の拠点となる施設はなく、また、地域振興の方法についてもそれぞれの団体に模索しているような状況であった。

そして、コミュニティ施設整備（コア施設＜総合案内所＞）の建設となる平成20年度を機に西塩田地区の3団体は一致団結し、この施設を地域振興の中核として活用するため、平成20年10月14日「コア施設運営委員会」を発足させ、新しく建設されるコア施設（総合案内所）の管理運営方法について準備を始めることとなった。

平成20年10月には地域で愛され親しみが持てるような施設を目指そうと、運営委員会主体で愛称を公募し、コア施設（総合案内所＝上田市塩田の里交流館）は、「とっこ館」という愛称になった。

上田市塩田の里交流館（とっこ館）の管理運営方法は、1. 地域資源・観光資源の情報発信の拠点、2. 都市と農村との交流の拠点、3. 地域内交流活動の拠点の3つを基本方針と定め、地域住民が主体となっていく「上田市の指定管理者制度」を導入することとした。

様々な準備期間や活動を経て、平成21年4月には、上田市に指定管理者としての申請を行い、6月の定例市議会で議決された。そして、9月17日、正式に「コア施設運営委員会」を設立し、10月1日の開館式より塩田の里交流館（愛称 とっこ館）の管理運営を始めている。

(4) 主な活動

- ①情報発信事業：施設での活動や地域情報をホームページ・広報紙等で情報発信する。
- ②田園空間展示事業：施設内の「情報の間・休憩スペース」で、地域文化の紹介や展示展覧会を開催する。
- ③視察受入事業：県内外の視察や施設見学の受入を行い、施設のPR活動や交流を行う。
- ④田園の里交流事業：静岡県掛川市にある「NPO法人とうもんの会」と交流協定を締結し、お互いの農村文化の交流や農産物を販売する。
- ⑤各種体験事業：毎月2回以上の料理教室や文化的・娯楽的な地域交流の各種体験事業を開催する。
- ⑥物販直売事業：加工品（ドレッシング、味噌）の販売や、駐車場の直売所で農産物（リンゴ、野菜等）を販売する。
- ⑦地域づくり連携事業：上小地域連携会議（上小地方事務所、上田市、青木村、コア施設運営委員会）で「とっこ館秋まつり」を開催し、収穫を喜び、収穫を祝う気持ちを大切に、今後も継続して開催する。

3. 活動の概要

田園空間整備事業を契機に設立したコア施設運営委員会が、とっこ館（コア施設（＝総合案内所））を拠点として、田園空間博物館に展示されている豊富な地域資源を、様々な活動を企画することによって紹介し、「都市と農村の交流」、「地域の活性化」に寄与している。

4. 農業農村整備事業の実施後の取り組み内容と効果

（1）事業計画策定、実施、利活用（管理）を地域住民などの参画や合意形成により、取り組んだこと。コミュニティ施設（とっこ館）、集落水辺整備（ため池7ヶ所）、景観保全整備（案内板設置）等については、計画・設計段階から将来の維持管理も含め、ワークショップ方式により地域の意見を取り入れ、現地立会を行い、それぞれの意見を十分尊重しながら計画・設計を行った。また、実施段階においては遊歩道等の簡易な工事については地域住民参加の直営施工を導入し、地域の連帯感、施設への愛着心を醸成した。

（2）地域における環境や景観など多面的機能の配慮に対応した取り組み。

・地域資源の保全に対する取り組み。

塩田平には、約100個と言われる「ため池」が存在し、その農業用施設の多面的機能を地域住民に理解してもらうため、施設内にある情報の間において、ため池の位置や名称、構造などをパネルや模型を使って紹介している。また、サテライトとして、整備した農業用施設（ため池、風穴、遊歩道等）を自治会ごとに管理協定を締結し日常の維持管理をすると共に、農地・水・環境保全向上対策の活動組織と連携して、地域を上げて生態系保全活動（下之郷地区・富士山地区：マダラヤンマ保護、富士山地区・手塚地区：ため池外来種の駆除）や水質保全活動（手塚地区：ため池ハス駆除）、景観形成活動（手塚地区：シバザクラ）等に取り組んでいる。

・伝統芸能の保全や継承などの取り組み。

施設内には、ため池や地域文化を紹介するメインパネルを備え、地域住民が作成したDVD「塩田平に中世の文化財を訪ねて」「塩田平の祭と行事」「塩田平の水とため池」を常時放映し、企画展示として、上田電鉄別所線等の地域文化を紹介する「情報の間」や、塩田平に伝わる民話をパネル展示や語り等で紹介している「語りの間」を整備し、地域文化の保全や継承を行っている。

塩田平の民話を保全・継承しようと「塩田平民話研究所」と連携し、地域住民や小学校・保育園等に「民話の語り」を楽しんでもらい、民話の理解を深めてもらう。また、毎年2日間行われている「民話フェスティバル」に協力し、全館を開放して開催している。

平成22年10月30、31日に長野県地域づくり連携事業を導入し、「第1回とっこ館秋まつり」を開催した。その祭りにおいて地元の伝統芸能である「西前山地区のお囃子」を披露し、地域内外の方々の理解を深めた。今後も地域の伝統芸能保存会（東前山：三頭獅子〔みつがしらじし〕、塩田新町：太太神楽〔だいだいかぐら〕、青木村：壁塗り踊り〔かべぬりおどり〕）の紹介を予定している。

（3）地域住民の活性化等の取り組み

- ・各種体験事業の実施
- ・田園の里交流事業

（4）教育機関との連携

- ・高等学校の総合学習や課外活動の連携
- ・小学校との連携（各種学習会、施設見学）等

（5）他地域や全国への情報発信の取り組み。

- ・HPの活用
- ・地方紙、ケーブルテレビ等へのイベント情報の提供

（6）その他

- ・「地域づくり連携事業の導入」 第1回とっこ館秋祭りの開催

5. 取り組みに対しての苦勞、工夫及び地域の課題克服

・事業の計画策定、実施、利活用（管理）を推進するために地域住民の参画を促す工夫。

コア施設運営委員会が足を運んで説明し、この事業に対して理解を深めてもらう努力をした。

また、施設が開館してからは、一部の役員で運営管理を行っているという形にならないように、日常的な管理は当番を決めて行い、それらの活動を含めた運営管理状況をホームページ・広報紙等を通じて、地域住民にPRしている。また、開かれた施設とするため、他地区の人々にも活動に参加・理解をしてもらえるように、新聞やTV等の報道機関やホームページ等で、幅広く周知することを心がけている。

・行政（県、市町村）の関係者が取り組むにあたっての苦勞や工夫。

施設の建設に当たっては、地域の皆さんに、事業の趣旨を理解していただき、コア施設を自主的かつ積極的に管理・運営していただくために計画・設計段階からワークショップ方式を取り入れ、地域の皆さんの意向を建設に反映した。

・地域リーダーの発掘に対する工夫。

田園インストラクターを募集し、今後の地域における更なる活動の向上、運営委員会の後継者の発掘に取り組んでいる。また、活動がボランティア（無償）にならないように体験事業等での収益を人件費に充てていく予定。

・地域住民や関係組織（土地連、土地改良区、JA、教育機関等）との連携するための工夫。

相手からの情報やアイデアを待つのではなく、自らアイデアや情報を発信することで、お互いの理解が深まり様々な企画や催し物に参加・協力してもらうことができた。

6. 本取り組みと農業

①今回の地域づくりにおける取り組みは農業や農家にどのような影響を与えたか、また、農業自体がどう変わってきたか。

平成22年度に実施した「第1回とっこ館秋まつり」において、地域の特産品の販売や紹介を行い、直接的に農産物が売れることで、今後における農業の励みとなるイベントとなった。

また、施設駐車場横に農産物直売所を併設し、毎週日曜日に開催することで、地元農産物を紹介する良い機会となり、地産地消の推進を図ることができた。

②環境に配慮した農業の展開、新規作物の導入について。

別所温泉魅力創生協議会が中心となり、上田地域の特産物「山口大根」「上田みどり大根」や、ヤマノイモ科の「新丹丸」（通称つくね芋）を使った料理教室を開催している。農産物の特徴を知ってもらい、地域の特産品にしようと考え、頻繁に料理研究会を実施している。今後はその活動が発展し、遊休農地等で新規作物の導入が増えることを期待する。

7. 今後の展望

今後の課題は、活動を継続していくことが重要と考える。それには飽きのこない体験事業や情報 展示の企画立案を行い、その募集を幅広く周知し、実施状況の結果報告等の広報活動に力を入れること。そして更なる施設のPR活動や、それらを運営していく運営委員会の後継者育成と人材募集を行う強い組織づくりが必要だと考える。

以上を踏まえ、23年1月より、田園インストラクターの募集も始めたところである。

この企画は、田園空間整備事業に沿った地域内外に講師を募集して、体験事業の他に、各種講座などを開催し、平日の施設利用が図るものである。このほかに、施設外での活動も充実させ、農業体験（作業・収穫等）や里山体験（山菜狩り・きのこ狩り・里山ウォーキング等）を企画し、遊休農地の解消や里山の保全にも取り組んでいく所存である。

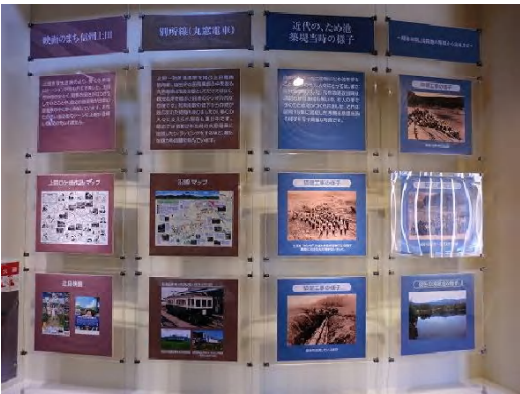
また、平成21年度には静岡県掛川市にある田園空間博物館「とうもの里」と「上田市塩田の里交流館（とっこ館）」で、お互いの農村交流を目的とした「田園の里交流協定」を締結した。今後は、全国にある田園空間博物館とも交流協定を締結し、お互いの信頼と友愛の絆を深め、地域間の経済や文化の交流を図りたいと考えている。そして、相互の施設を拠点とした農業の魅力や農村文化の情報発信、体験交流に関する事業を展開し、地域に住む人が誇りを持ち、また、地域を訪れる人々と心豊かなふれあいを育てていく考えである。これらの活動が地域振興の基礎として、地域雇用の創出、特産品の開発等、幅広い地域振興に役立てばと思っているところである。



上田青木田園空間イラストマップ



コア施設「とっこ館」



地域文化の紹介



保育園民話語り



自治会との連携による「餅つき体験」



施設併設の農産物直売所